

# POLE

北海道ポーランド文化協会会誌「ポーレ」  
第45号 2000.6.10

発行  
北海道ポーランド文化協会  
〒060-0052  
札幌市中央区南2東2  
河合楽器製作所北海道支社  
電話 011-231-8661  
FAX 011-221-4936

## 古都の竜とカララス (クラクフ)

—ポーランドの都市の伝説②—

栗原成郎

わが心のふるさと北海道の「味」忘れがたく、わが家では札幌・白石郵便局扱いの「北海道グルメ会」に入会して毎月ゆうパックで「ふるさと四季の味」を送ってもらっています。今月届いた小包の中身は函館元町のソーセージ・セットでした。ウィナーソーセージ、フランクフルトソーセージと並んでクラカウソーセージがありました。いずれもヨーロッパの都市の名を冠したソーセージです。ウィーン、フランクフルト、クラカウ。このクラカウ Krakau はポーランドの古都 Krakow のドイツ語名です。そこで想いはクラクフへ。

クラクフという地名の由来についてはいろいろな説がありますが、有力な説は次の二つです。

(一)クラクフの町。Krakow は Krak の物主形容詞形であり、「クラク (町)」という意味です。ある

史料によれば、クラクはケルンテン (オーストリア) 出身の外来者ですが、ヴィスワ河畔にクラクフの町を建設して自ら「王」を名のり、その地方一帯を治めました。クラクは民の幸福をつねに心にかけていた誠実な名君でした。クラクの家臣たちは王の事績を称えて立派な墳墓を築いたと言われます。

クラク王には大きな悩みがありました。それは城壁のふもとに洞窟に住む恐ろしい竜で、竜は家畜ばかりでなく、ときには人間をも襲って、むさぼり食いました。そのため人々は一日に三頭



Książę Krak クラケ王

そのさ  
い弟のほ  
うの王子  
は王位継  
承上のラ  
イバルで  
ある兄を  
襲って殺  
害し、王  
宮に戻っ  
て、兄は  
竜との闘  
いで命を



の仔牛か羊を生けにえとして竜に獻げざるを得ませんでした。王は町を竜の脅威から解放することを決断し、二人の王子に竜退治を命じました。

王子たちは竜を倒す策を練りました。仔牛の腹の中に硫黄を詰め、腹の皮を縫い合わせたうえで仔牛を竜に投げ与えました。硫黄の詰まった仔牛をまるごと呑み込んだ竜は自ら吐き出した激しい炎につつまれて死にました。

落とした、と嘘の報告をしました。やがて彼は王位につきましたが、すぐに虚偽がばかれて、兄殺しの罪で永久追放に処せられました。王位はクラクの娘のヴァンダが継いだという事です。

(二) カラスの町。ポーランドは国民の約九〇パーセントがカトリック教徒であるキリスト教国ですが、九六六年にミェシユコ王がキリスト教を受容する以前は、自然の諸力を神々と崇める異教徒の国でした。クラクフの町の伝説的な建設者クラクも異教徒でした。彼の名 *Krakus* は「(カラスが) かあかあ鳴く」という意味の動詞 *krakać* クラカチと関係があり、「カラス」の意味をもつ、と解釈されています。ふつう「カラス」を表す語は *Kruk* クルクですが、*Krakus* は *Kruk* の別形と考えられます。異教時代、カラスは農作物の収穫



Kruk カラス

南側から見た ヴァグゼル城



や人間の運命を左右する「聖鳥」と崇められ、人々は豊作と健康と繁栄を祈願して、カラスのために岩穴や森の木陰に穀物やパンを献げ物として置きました。カラス祭祀を司る祭司たちがいて、彼らはカラスの羽色と同様の黒い祭服に身をつつみ、豊饒祈願などの祭儀を行い、いっぽう、森の中に落ちていくカラスの羽根を用いたり、カラスの鳴き声や飛び方から判断して占いをを行い、占い師として人々の人生相談に応じました。地域の侯たちも軍事行動や政治的対処の判断に際して異教祭司の助言を頼りとしました。

守護神カラスのつばさの陰にあって王朝の繁栄を願う異教時代の支配者たちがカラスに因んだ名を自分に



ヴァグゼルの竜

つけても、不思議はありません。キリスト教受容後、教会は偶像崇拜の根絶を図り、異教の神殿や聖所を破壊し、異教祭司を追放しました。しかしキリスト教会はカラスの習性まで変えることはできず、カラスはあいかわらず元の「聖所」に飛んできました。業を煮やしたクラクフの司教はカラス狩りを命じました。月のない夜にカラスはかすみ網で一網打尽にされ、羽根と脚を縛られ、首に石を結びつけられてヴィスワ川に沈められました。こうしてカラス崇拜は終わりましたが、その名残は町の名にとどめられています。

(創価大学教授)

## 総会のご案内

2000年～2001年度の総会を下記の通り開く予定です。

日時 10月13日(金) 6時30分～

会場 すみれホテル(中央区北1条西2丁目 ☎261-5151)

詳細については追ってご案内いたします。

なお、総会当日、第三回ポーランド方面への旅行の予備調査をしたいと考えています。

## 第4 1回例会ご案内

ビデオによるポーランド映画鑑賞会

# 「トリコロール・青の愛」

クシシュトフ・ケシロフスキ監督

フランス・スイス・ポーランド共同製作

1993年 ヴェネチア国際映画祭金獅子賞主演女優賞  
撮影賞受賞

1993年 ロサンゼルス批評家協会賞 作曲賞受賞

1994年 セザール賞 主演女優賞受賞

日時 8月1日(火)午後6時30分～8時30分

会場 かでる2・7 (中央区北2条西7丁目)10階視聴覚室

解説 本間富雄氏(北海道ポーランド文化協会運営委員)

会費 無料

人は耐えられない悲しみに出会ったとき、多くは外界との接触を断ち、孤独な暗い部屋に閉じこもり、時の通り過ぎるのを待つか、あるいは別の人格に変わることによって当事者でないかのような自分を演出する。交通事故で愛する夫を失った妻は、思い出も友情もすべて拒絶し、家を出てパリでひっそりと暮らす。やがて夫に愛人がいたことを知り、夫の友人と共に残された曲を完成し、自分の道を歩き出す。

## あなたの愛は何色

本間 富雄

ケシロフスキ監督は一九四一年、ワルシャワ生まれ、ウイジの国立映画大学でワイダ監督の後輩である。九一年には「ふたりのベロニカ」でL.A批評家協会賞を受賞している。あまりに鋭い感性と、傷つきやすい魂を持っているためか、作品で政治や歴史を直接に素材にするこ

とはほとんどない。社会現象よりも普遍的、根源的な罪や、悲しみ。そして裏切られてもなお、心の痛みの中で相手への思いやりを持ち続ける女性のおとなとしての魅力を描いている。この映画の主な舞台はパリで、語られる言葉はフランス語である。国境を接することなく、したがって侵略されることもなかった国への親しみやあこがれは強い。夫が生前依頼されたといふのは、欧州統一を記念する曲だった。そこに監督のひそやかな政治願望が読みとれる。

この映画は光と影のゆらぎ、それに同調する音楽効果が秀逸である。「言葉が沈黙し、知識が消滅しても・・・最後に残る最も尊いものは愛」という字幕でこの物語が終わる。

# 札幌でおもう

## ポーランドのこと

アレクサンドラ・モクシンスカ

北大文学部研究留学生

札幌に来てから、もう五か月が経った。千歳空港に着いたのはある寒い真冬の日だった。今住んでいる七階のアパートから緑で溢れている北海道大学のキャンパスを見回すと、吹雪の中で無事に着いたよという連絡を家族にしに行ったあの最初の夜の町が同じ町なのかなと思っいる。札幌は随分変装したな。私もこの町みたく変わってきた。もうポーランドのことを考えてばかりいないで、ようやく新しい状況や生活に馴れてきた。

ニュースを発見した。三月二十七日にアンジェイ・ワイダ監督はハリウッドでオスカー賞を受賞した。受賞式に参加した芸能人がスタンディングオベーションをした。これはみたいなとマウスで画面の頁を捲りながら考えていた。ワイダ氏はオスカー賞を監督の卵に捧げた。「彼らの作品も将来、世界に出るよう祈っております。矛盾ですが映画はポーランド風であれば、あるほど、さらにいっそう国際的な注目を引くと思っております。」この言葉を証明するのは九九年に出来たアダム・ミツキエヴィチの「パン タデウシ」の映画化だろう。去年の暮れにこの作品を見て奇妙な誇りめいた気持ちを感じ出す。

ワイダ監督はデビューしてからも

う半世紀近くなる。処女作は五三年に作られた「バルスカ通りの五人 (PIĄTKA Z ULICY BARSKIEJ)」である。受賞までにワイダ氏は四〇作品以上撮影した。その中の大部分は多くの国で放映された。日本でもワイダと言えば大勢の皆様はすぐ「地下水道」と答えるだろう。北大の図書館のマルチメディアルームを覗いて見たらワイダ氏の数点の作品が書架に置かれていた。

その日、新聞を読み終えて、五六年に出来た「地下水道」を見ることにした。この映画はワルシャワ蜂起（一九九四年八月九月）で戦っているある一つの若者の中隊の行方を語っている。ワルシャワ蜂起は九月下旬に終わりつつあって、十、二十代の兵士達は否応無しにジョリポシ区を退却することになる。回りにドイツ軍が迫ってくるので、背水の陣という緊急事態。命を救うには地下水道で中央区まで引き下がらなければならぬのだ。青年は死ぬまで戦いたがるけれど中隊長の命令にしたがわなければ仕方がなく一人一人次から次へと地下に降りてゆく。ジョリポシ区から中央区まで十五キロ位

だろう。なんて辛い行進だろうと感ずる。主人公達は勇気出しながら狭くて低くて、下水でいっばいである地下水道を進む。ドイツ人はガス爆弾を落とすため、澄んだ空気が不足して息苦しくて皆は死にそうだ。おまけに道に迷って大きな迷路に落とされたみたく、冷静でいられない。若い兵士達は生き残るかを、お知りになりたいなら「地下水道」を見てご自分でお確かめ下さい。

「地下水道」は私にとってとても大事な映画だ。私の住んでいるところはジョリポシ区だ。それどころかこの作品は私の家族の物語なんだ。私の祖父と祖母も当時それぞれに二十三歳と二十二歳でワルシャワ蜂起に加わった。祖父は旧市街から中央区まで地下水道で退いたのだ。祖母は資格がなくても看護婦隊に参加して戦の起こる所にいつもいた。

なんで私はワイダ氏の映画が好きなのだろう。刺激的であって大事なことを考えさせられるからなのだろう。白黒の四十四年のワルシャワから、二〇〇〇年の咲いている花に彩られた札幌に戻った。平和な時代の中で生きていて、なんて幸せなんだろう、私。



# 輝く春

山川素子

昨年の八月末から、ポーランド最北端の港町、グダンスクに暮すようになって、はやくも九か月が過ぎようとしています。

今年の四月、最後の週のポーランドは、春さえ一気に通り越して初夏を思わせる気候でした。どうやらいつもよりはかなり暖かい天候らしく、本来より気温の上がり方が早いようなのですが、その二週間前にチューリップが咲いていたと思っただけ、レンギョウや日本とはすこし品種の違う白い桜が満開になり、昼間の気温が二十度を越す日があつたとたん、札幌では六月の花であるライラックまで咲き出して、節操がないほど「百花繚乱」なありさまです。

五月末に入った最近では、マロニエや雪柳、こでまりが盛りを過ぎ、藤に似た、黄色の花房をたわわに揺らすゴールデン・シャワーや、牡

丹、芍薬の花が目に見え鮮やかです。日が暮れるのもずいぶん遅くなりました。いまでは夜八時過ぎまで明るく、九時でもまだ夕方の気分です。

日照時間に比例するように、花ばかりでなく、緑の方もほんとうに日ごとに成長し、木々の枝葉が伸びて青空を被っていくのがわかりました。まるでコマ落しの観察フィルムを見ているような勢いです。

夕方など、暑くも寒くもない、ほんとうに気持ちのいい気温でした。この時期がこんなにも快適だとは全く予想していませんでした。誰もがワクワクせずにはいられない、美しい季節です。

高緯度にもかかわらず、ヨーロッパの人々がこの地で長く生きてきたのは、あんなに暗く長い、色彩を失った冬の日々の陰鬱さも一蹴されるほど、これほどまでに生氣に満ち

た春が訪れ、その歓びを存分に享受できるからこそなのではないかと、思うようになりました。

このあいだ、一戸建てが多い閑静な住宅地を歩く機会があり、庭々の木々や花壇がさまざまに花咲いている様子をながめていてふと感じたのですが、私が好きなフランスの家、ボナールが描いた庭の木々の絵が丁度こんな雰囲気をよく伝えていくことに気づきました。今、手元に彼の画集がないのが残念です。

彼の暮したフランスの地では、また一味違った春なのかもしれません。どうして彼が庭の絵を好んで繰り返し描いたのか、少なくとも、彼が描き出そうとしていた光景が実際にはどんなものだったのか、今回初めて、少しわかったような気がして、異国での暮しならではの歓びに、またひとつ出会えたように思えました。



チューリップに囲まれて



(グダンスク大学 日本語教師)

二〇〇〇年四月一日付けのポーランドの新聞「ジエチポス」に

ポリ  
タ」に  
有珠山  
噴火の  
記事が  
掲載さ  
れまし  
た。一

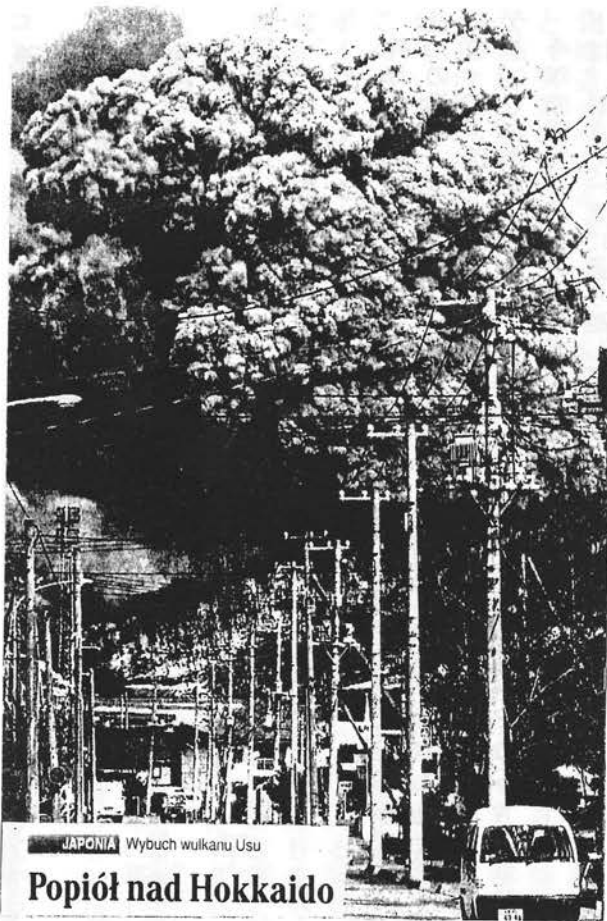
## 北海道に

## 灰が降った

面トップ記事です。  
記事には「日本の北海道にあ

郊)から緊急非難。」と書かれて  
います。

(東京  
から北  
へ七七  
〇キロ  
メート  
ル離れ  
た伊達  
市近



1999年度 商品の市価(ユーロ換算)と月収で購入できる量

品目	ポーランド		[参考] 月収で購入可能な量		
	市価	ユーロ	月収で購入可能な量	主要国東欧*	主要西欧国*
牛乳	l	0.46	741	697	1941
鶏卵	個	0.09	3789	3796	8936
砂糖	kg	0.45	758	602	1559
牛肉骨付	kg	1.89	180	129	393
馬鈴薯	kg	0.28	1218	1078	1994
リンゴ	kg	0.66	517	495	1215
オレンジ	kg	0.99	344	296	1126
ウオッカ	1.7l	7.78	44	36	180
コーヒー	100g	2.00	170	247	448
チョコレート	100g	0.49	696	561	2111
ビッグマック	食	1.30	262	209	698
洗剤	l	0.75	455	448	1041
婦人美容室	回	19	18	34	46
紳士背広	着	177	1.9	2.0	8.3
マジョルカ旅行	2週間	448	0.8	0.4	2.9
映画	回	4.15	82	91	2.51
C D	枚	13	26	21	98
主要新聞	部	0.41	832	1171	1568
冷蔵庫(280)	台	295	1.2	0.8	3.7
カラーテレビ(21型)	台	189	1.8	1.2	4.3
月収 ユーロ換算 (ユーロ=4.24zł)			341ユーロ	291ユーロ	1633ユーロ

[注] POLITYKA (2000. 1. 8号)より

主要国東欧\*: ポーランド・チェコ・ハンガリーの平均; 主要西欧\*: 独・仏・伊の平均とした。

この期間、ユーロとUSドルはほぼ等価。 1ユーロ(4.24zł) = 0.99ドル [富山]

昨年度(一九九九年)

## ポーランドの物価と購買力

ポリティカ誌による物価一覧表は、ズオテイからユーロ表示に変わり、欧州各国と比較しやすくなりました。そのため、各国共通・類似の商品が選定されております。ルーブル圏から自由経済圏に移行、旧東欧経済回復の優等生と言われてきたポーランド、さらにユーロ経済圏加盟に向かっての意気込みがうかがえます。

米・家賃・婦人美容室料金は各国に比べて一番高い実態との特記あり。なお、今回から興味あるパンの項目が消えました。パンの実態は、それぞれの国独自のものが消費され、比較基準として一種に設定することが無理であるためとも考えられます。

「富山」

# ポーランドは

## こんなに変わった

第四〇回例会会で松本照男さんが講演

「東欧革命から十年のワルシャワ」と題した松本照男さんの講演は、生活の実体験に根ざしたものでした。

ポーランドの女性と結婚することになって、披露宴の招待状の印刷にも検閲局の許可が必要と知って驚いた社会主義の時代から、東欧革命を経て、自由で、なんでも手に入るようになった現在まで、それぞれの体制の光と影を、ユーモアを交えて話してくださいました。一時間の講演と一時間半ほどの会食

に、東京から遠来の会員や、会員以外の方も含めて二十五名ほどが参加し、話が弾み（話題は、ともすれ

ば、社会主義時代の苦勞話に傾きがちでしたが）、たいへん和やかな会となり、松本さんにも、私どもにもたいへんうれしい会でした。さらに二次会でも、話に花が咲いたのはいうまでもありません。

(安藤厚)

### 講師紹介

一九四二年生まれ。明治大学法学部卒。一九六六・七〇年ワルシャワ大学大学院ジャーナリズム研究所留学。日本貿易振興会勤務、文化放送ワルシャワ特派員などを経て、現在フリージャーナリスト。ワルシャワ在住三十四年。

### 著書

- 「戦争と占領」 岩波ブックレット
- 「ワルシャワ蜂起」(共著) 社会評論社
- 「もっと知りたいポーランド」(共著) 弘文堂、など。

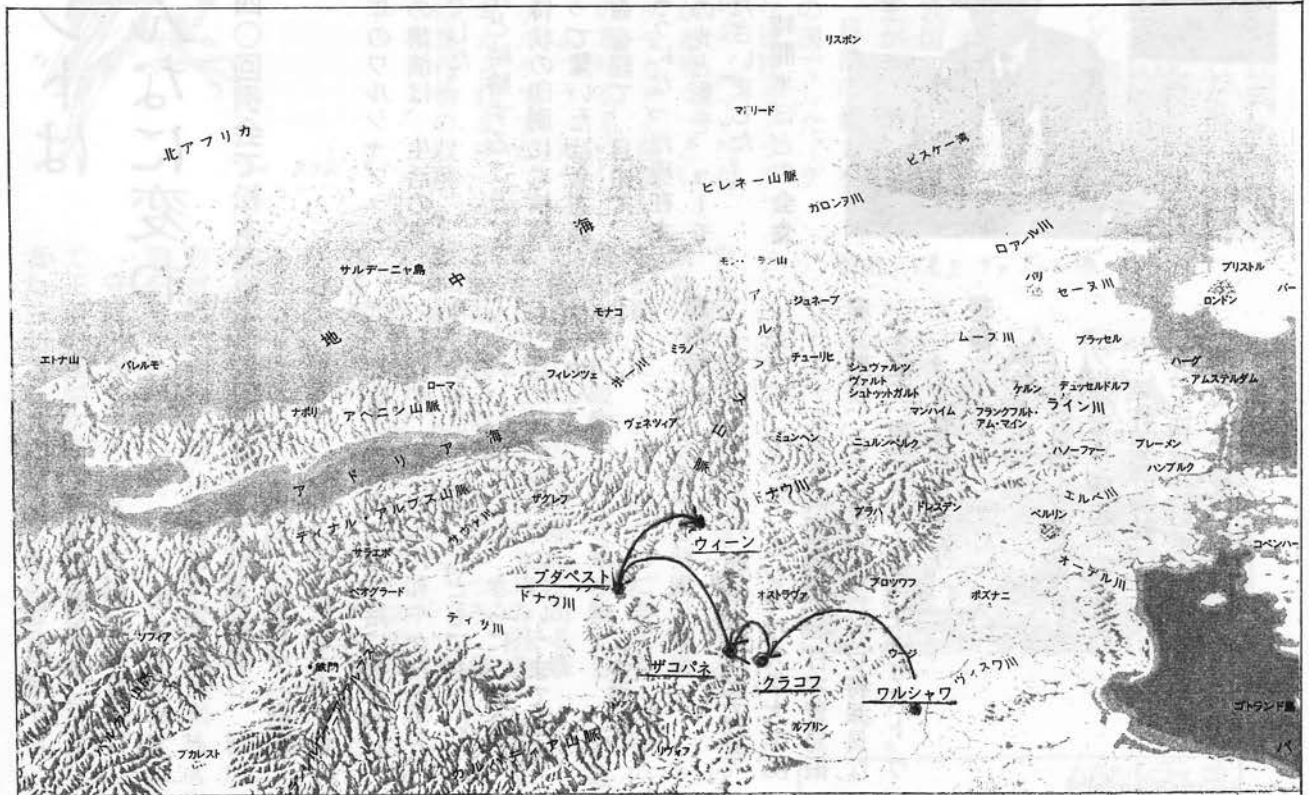
講演中の松本さん



二次会の席で右端が松本さん



北海道ポーランド文化協会創立15周年記念  
2001年ポーランド・ハンガリーへの旅  
のお誘い



第3回目のポーランド旅行を2001年に実施しようといま計画中です。  
今回はポーランドだけでなく、ハンガリーへも足をのぼし、ついでにちょっとウィーンものぞいてみて・・・という変化に富んだ旅を考えています。  
具体的な内容についてはこれから検討します。  
参加をご希望の方は今から準備をなさってください。

★日程(案) 9月下旬出発予定

- |      |                          |        |
|------|--------------------------|--------|
| 1日目  | 千歳→アムステルダム経由             | ワルシャワ泊 |
| 2日目  | ワルシャワ観光→クラコフ             | クラコフ泊  |
| 3日目  | クラコフ観光→ザコパネ              | ザコパネ泊  |
| 4日目  | ザコパネ観光                   | ザコパネ泊  |
| 5日目  | ザコパネ観光→ハンガリー・ブダペスト       | ブダペスト泊 |
| 6日目  | ブダペスト市内観光                | ブダペスト泊 |
| 7日目  | エステルゴム、ヴィシェグラード、センテンドレ観光 | ブダペスト泊 |
| 8日目  | ブダペスト→ウィーン 市内観光          | ウィーン泊  |
| 9日目  | ウィーン→千歳                  |        |
| 10日目 | 千歳着                      |        |

★費用 約30万円(見込)

行ってみたい場所・その他のご希望がありましたら、下記までお知らせください。  
Tel 011-386-3405 (小笠原) Fax 011-387-9016 (小笠原)

「ポーレ」編集委員会  
小笠原正明・斎田道子  
佐々木保子・高岡美保  
三浦洋  
〔連絡先〕  
621・1738 (斎田)



## POLE 第 45 号(2000.6.10)目次

栗原成郎「ポーランドの都市の伝説②古都の竜とカラス(クラクフ)」	1
第 14 回総会(2000.10.13)のご案内	2
〈第 41 回例会〉ビデオによるポーランド映画鑑賞会『トリコロール・青の愛』(解説:本間富雄、2000.8.1)の お知らせ、本間富雄「あなたの愛は何色」	3
アレクサンドラ・モクシンスカ「札幌でおもうポーランドのこと」	4
山川素子「輝く春」	5
北海道に灰が降った(「ジェチポスポリタ」紙より)、1999 年ポーランドの物価と購買力(「ポリティカ」誌より) 〈第 40 回例会〉講演:松本照男「ポーランドはこんなに変わった～東欧革命から十年のワルシャワ」 (2000.3.14)(安藤厚)	7
北海道ポーランド文化協会創立 15 周年記念 2001 年ポーランド・ハンガリーへの旅(2001.8.30～9.9)の お誘い	8